

シヨノロマン



1985年3月14日生 牝 栗毛
 父:リードワンダー
 母:シンシラオキ(母の父:シンザン)
 類似:平野喜良生産
 調教師:庄野穂積(栗東) 馬主:庄野昭彦氏

若き天才と歩んだ大舞台

春のクラシックシーズンを間近に控えた2月、ようやくデビュー戦を迎えたシヨノロマン。4番人気ながら2着馬に1秒4の差をつけて快勝。しかし、ダート戦ということもあり、この時点で2か月後に行われる桜花賞の有力馬になると予想するのは難しかった。が、中1週で出走した芝コースのこぶし賞、さらに、チューリップ賞(当時は桜花賞指定オープン)を連勝、3戦3勝の成績で桜の女王決定戦へと駒を進めた。

彼女のパートナーも魅力的だった。

武豊。前年にデビューし、69勝と当時の新人最多勝記録を塗り替えた若き天才。だが、GIレースは新人の年に菊花賞、エリザベス女王杯、マイルチャンピオンシップ、ジャパンカップに騎乗して未勝利。今回は5回目の挑戦だった。

1枠1番の絶好枠からダッシュよく飛び出したシヨノロマンは、すんなりと3番手で流れに乗ることができた。そしてレースは1000m通過が58秒1と桜花賞らしいハイペースで進み、後半の攻防を迎えた。4コーナーを回り、直線の入り口にさしかかると前を行くアイノマーチ、リキアイノザンの脚色があやしくなり、じっと最内で機をうかがっていたシヨノロマンが進出。武騎手がゴーサインを出すすと反応よく2頭を抜き去り先頭に。人馬の夢を後押しするかのよう場に歓声は最高潮に達した。が、それに待ったをかけたのが、彼女と同じ庄野穂積厩舎のアラホウトクだった。瞬く間にシヨノロマンを捉え、そのままゴールへ。0秒3差の2着。栄冠を手にすることはできなかった。

この後も武騎手とのコンビでオクスに挑戦、直線で伸びを欠いて5着。秋を迎え、初戦のローズステークスで初の重賞勝ち。エリザベス女王杯は1番人気に支持されての出走となった。ちなみに鞍上の武騎手は前週の菊花賞をスーパークレークで優勝、このレースでGI連勝というさらなる高みを目指していた。

逃げるキャッチミーから離れた4番手につけたシヨノロマンは4コーナーで外に持ち出し、その差を縮め、ゴール前200mで先頭に立った。このまま押し切るかと思った瞬間、ミヤマポビーが急襲。ハナ差の2着。またしても勝利の女神は彼女の前を素通りした。

あと一步のところでヒロインの座を射止めることはできなかったシヨノロマン。だが、若きヒーローを背にGIの大舞台を盛り上げた貴重なバイプレーヤーだった。

1988年★第13回エリザベス女王杯(GI) ミヤマポビー(帽色・緑)にゴール前でハナ差交わされ、シヨノロマン(帽色・白)はまたしても2着と涙を呑んだ。



1988年★第6回関西テレビ放送賞ローズS(GII) 粘るホロトイフル(内)をゴール前できっちり捉えたシヨノロマン(帽色・青)が初の重賞タイトルを獲得。

年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
1988. 2. 6	京都	4歳新馬	ダ1400	1	1:28.6	武 豊
2. 21	京都	こぶし賞	芝1600	1	1:36.7	石橋 守
3. 13	阪神	チューリップ賞	芝1600	1	1:37.5	武 豊
4. 10	阪神	桜花賞(GI)	芝1600	2	1:35.1	武 豊
5. 1	東京	サンケイスポーツ賞4歳牝馬特別(GII)	芝2000	2	2:01.6	的場 均
5. 22	東京	優駿牝馬(GI)	芝2400	5	2:29.1	武 豊
10. 23	京都	関西テレビ放送賞ローズS(GII)	芝2000	1	2:01.6	武 豊
11. 13	京都	エリザベス女王杯(GI)	芝2400	2	2:27.2	武 豊
12. 25	阪神	サンケイスポーツ杯阪神牝馬特別(GIII)	芝2000	4	2:02.1	松永幹夫
1989. 5. 6	京都	シルクロードS	芝1600	1	1:35.7	武 豊
6. 11	阪神	宝塚記念(GI)	芝2200	9	2:15.7	加用 正
7. 9	中京	高松宮杯(GII)	芝2000	3	2:00.0	武 豊
9. 17	阪神	朝日チャレンジC(GIII)	芝2000	12	2:03.4	武 豊
10. 10	中京	名古屋市制100周年記念	芝2000	1	R1:58.3	武 豊
11. 19	京都	マイルチャンピオンシップ(GI)	芝1600	10	1:36.4	河内 洋

※レース名は当時の表記による



1988年★第48回桜花賞(GI) 直線で一旦は先頭に立ったシヨノロマン(帽色・白)だったが、僚馬アラホウトク(帽色・黒)の末脚に屈して2着に惜敗。

